

安全・安心のまちづくり



森元 清蔵
(21 政会)

問 自然災害に強いまちづくりが一番の基本になっていくのではないかと。加西市の地域防災計画の充実強化についてお尋ねする。

①今年度の防災マップの作成に300万円が上がっているが、この防災マップの改善をどのようにされ、どう利用されようとしているのか。

1時間雨量66ミリという想定よりも、最近では80ミリという状態を想定して作成していく必要があるのではないかと。

②いざという場合を想定した実質的な自主防災訓練が必要ではないかと。

③防災無線等の連絡体制をどう強化するのか。

④最近の異常気象の中で集中豪雨、洪水の危険性が増えている。再度この防災計画について見直しが必要ではないかと。

答 ①本年度の防災マップ改訂作業では、中学校区ごとにマップを作成することにしています。

防災マップは、浸水想定区域が万願寺川等の流域全体に、1時間に66ミリの雨が降り、おおむね30年に1回起こるであろうという大雨の雨量を想定して作成されたものです。最近のゲリラ豪雨等により、これ以上の雨量になるとどうなるのか、兵庫県の防災課とも相談中です。

②地域に応じた我が家のハザードマップをつくりましょうというような手順のいろんな説明書きもあ

りますので、そういったものも有効に利用されて、自主防災訓練等で生かしていただきたいと思えます。

③現在、防災無線については基地局が1つ、移動局19を保有しています。今後は、光ファイバー網が100%整備されましたので、これらを利用した情報の伝達ができないかを検討したいと考えています。

④県の指導を待ちながら、市として慎重にこういう計画は作成していきたいと思えます。今後加西市がつくっていく防災計画も含めて、最大限の災害を想定しながらつくってきたいという思いです。

■その他の質問項目

- ・ 所信表明

介護予防への取り組みと施設整備



三宅 利弘
(21 政会)

問 介護保険制度が施行されてから11年余りが経過した。この間、加西市では平成20年度に高齢化率が24%となり、平成26年度には29.2%まで上昇すると推計されており、高齢者福祉の問題はますます重要となってくる。平成21年度から23年度まで取り組んできた第4期介護保険事業計画の効果の検証をしながら、第5期の計画の策定に生かさなければならぬ。

①第4期介護保険事業計画のうち、介護予防への取り組みとその成果は。

②待機者の多い中、施設整備はぜ

ひとも必要と考えるが、第5期介護保険事業計画を策定する中で施設整備をどのように位置づけしていくのか。

答 ①介護予防事業は、主として活動的な状態にある高齢者を対象に生活機能の維持、向上を図る目的で行っています。事業内容は、介護予防教室、転倒予防教室、健康教室などを実施し、介護予防リーダー養成講座、地域福祉活動事業などに取り組んでいます。成果については、まだ途上の段階ですが、例えば介護予防教室では、平成22年度は91の老人クラブ他で実施し、114回実施しています。参加者からは、次回も参加したい、参考になったとの肯定的な意見をいただいています。

②施設整備の必要性については認識していますが、第5期計画策定

の中で本当に加西市として必要が見極めながらやっていきたいと思えます。



生き生き元氣塾

■その他の質問項目

- ・ 市道網引中野線の拡幅歩道整備